

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	(株)宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ (2ユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200544-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200544-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を肌で感じて頂けるよう、外気浴や散歩を楽しみ、笑いの絶えない第2の我が家となる温かいホーム。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3月から着任の新管理者は「利用者本位」のケアを大切に考え、例えば「食事の時間だから」ではなく「食べなくなったらまたね」とか、「眠たくないならテレビでも見る？」といった「添う」、取組みを推進しており、いきなり「飯を食べに行こう」と勇んだ利用者やラーメンをつきあったりと、内部だけでなく外出においても臨機な実践があります。また「水分を摂ってもらいたい」と昆布茶、スープ、ココアと多種類の飲み物を備え、口あたりが変わることで摂取量を伸ばすことに成功しています。まだ目標量には達しないものの、介護誌に記載して職員がその変化に注視していて、少しずつですが「方針の伴う介護」が始まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、フロアーに掲示しており、毎朝の申し送り時に唱和し実践につなげている。	毎朝唱和を繰り返しており、職員は語ることが出来ます。お世話するだけではない、「利用者から教えてもらうことも多い」との姿勢を以て日々の業務にあたっていることは職員の発語や立居振舞にも現れていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月、ホーム通信を町内会に回覧して頂き、自治会の行事にも参加している。	色塗りを利用者が率先して担当するホーム通信は地域に溶け込み、例えば寄付やボランティアの募集を掲載したところ、衣類をはじめ届きものが増えていきます。最近では美容室の椅子が寄贈され重宝に使われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内通信に生活状況を記載し回覧して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月のホームミーティングで報告をしてサービスの向上に活かしている。	出席できる人を限定してしまわないよう土曜日開催を試みており、地域包括支援センター職員も休日にもかかわらず出向してくださっています。家族と縁の薄い生活保護の利用者の増加に伴い、より地域とのふれあいが必要と考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂けるようお願いをしている。生活保護者には定期的に相談、アドバイスを受けている。	市役所へ案内をFAXしていますが出席はなく、事業所も議事録を届けていません。今後は介護保険課にも立ち寄りたいたしていますが、現在は生活保護者の案件で生活支援課窓口に頻りに足を運んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている。ミーティング等で研修を行っている。外出時には付添っている。日中は鍵はかけていないが夜間のみ防犯上玄関に鍵をしている。	玄関、ユニット施錠はなく、仮に独りででもすぐ追いつけるようにと、玄関には緊急外出専用バックが備えられています。新管理者の態勢となって大きく変わったことは食事や就寝の時間を本人のリズムに合わせることで、「起こる手前」の防止があると受け止めました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの中で気になる事はその都度注意している。またホーム内ミーティングで話し合いをしている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している方はいるが、職員により理解していない者もいる為 学ぶ機会をもうける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退去時に各家族に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会と運営推進会議を行っている。面会時、職員、家族が話しをする機会を設けている。	家族を持つ人が少なく活気には欠けるものの、運営推進会議が終わった後に引き続き家族間でコミュニケーションをもつ時間があり、ほかにも食事を介してざっくばらんに話せる機会も設けています。	“家族、の眼や声が少ない状況にあるため、人の往来が豊富になることで外部の人の私見が入るよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月のミーティングで意見や提案を聞いている。	職員は自発的な進言が苦手なようでしたが、「ワタシの施設ではなく、皆の働く場なんだよ」と折につけ新管理者が伝えることで意見がでてきます。今後は「会議運営にも工夫を加えて発言を促そう」という段階です。	事前にテーマを与えたり、メモ書きで予め意見収集するといった促進への着手も期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良等シフトにより、職員間の変更、有給を利用できるようにしている。希望休を含め職員各々の相談にのり勤務が続けやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝、申し送り時、起きる事例はその度、教育、助言をしている。ミーティングではさらに分かりやすく指導している。社内研修にて学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模ホームの連絡会に参加してホーム間で情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う、本人、家族のアセスメントに力を注ぎ、入居後は会話の時間を多くとり、安心して生活がおくれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を通して本人や家族の意向を聞きケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に本人、家族と話しあいニーズを聞きとり職員に伝え対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、その方に応じてできる事はお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて生活状況や健康状態を伝え、落ち着いた生活が送れるよう連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族から面会の希望等を聞き、友人と連絡がとれるよう配慮している。	飲酒についてドクターストップがかかっている人は楽しみを減らさないようノンアルコールビールを冷蔵庫にストックしています。信仰している団体の新聞を取り寄せている人や一般の新聞購読を続ける利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の会話を取り持つよう声掛けをしている。レクリエーションを通じて支えあえるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の面会に伺ったり、必要に応じて連絡をとり相談にのり対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの意向が聞けるよう会話を多く持つようにしている。変化していく認知症状にも柔軟に対応できるよう努めている。	「帰りたい」と始終言う人も食事のメニューをホワイトボードに毎日書いてもらう「その人ならではの」の仕事を用意し、ウエスカットやチラシでゴミ箱づくりをするなかで落ち着きを取り戻しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能な限りケアマネアより情報を頂いている。アセスメント時や面会時に本人、家族から聞き職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り、毎月のミーティングにて情報を共有している。毎日の記録を活用し全職員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて定期的に担当者会議、モニタリングを行っている。本人、家族の意見を聞き、主治医の意見を反映して計画書の作成している。	介護支援専門員の資格を持つ計画作成担当者2名で其々ユニット毎に作成しています。プランには医師の所見もいれ、またマッサージ師には日々のケアで本人の可動域を拓ける等職員ができることを指導してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録して、申し送り時にも伝え職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況などを確認しながら、その人のニーズにあったサービスを考え直している。家族が対応できない通院には対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや運動会などに参加している。ホーム通信を回覧板に入れて頂き情報を発信している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の月2回の往診。24時間対応をしている。全員の体調を記入して受診しやすい体制を整えている。必要であれば他医院への動向もしている。	一斉診療と1日1名の往診で1ヶ月の3分の2は医師の顔が見られ、夜間も応じてくれるため安心の医療体制にあり、全員が協力医に変更しています。訪問看護師も週1回訪れ、医師とも連携をもってくださいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化等を看護師に伝え、体調不良、変化には電話で指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はできる限りの情報を伝え、家族とも連絡を取り合っている。入院時の面会、看護師や相談員から情報を得て備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に説明をしている。重度化となる可能性の高い方については早い段階で医師、看護師、家族共に指針にそって話し合い契約のかたちをとり、共有している。	協力医も「(医療もしくはそれに準ずることが必要となれば)グループホームでは難しい」との判断となるため、看取りへの取組み姿勢はあっても実績例はさほどありません。また本件に係る研修は最近もおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、対応についてはミーティングの時や職員間で口頭で話し合い、看護師のアドバイスを受けている。提携医と24時間連絡が取れる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年2回、勤務人数の少ない夜間を想定して行っている。地域の防災訓練に参加を予定しており協力体制を築くよう努めている。	訓練では実際全員が庭にできるまでの避難や、手順や方法についての協議をおこなっています。備蓄は外の倉庫に保管していて、入れ替えは「防災の日」に検食する予定で、また12月の地域の防災訓練への参加も決めています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった言葉かけをしている。また勤務開始時には各利用者に挨拶を心掛けている。	出勤すると利用者一人ひとりに挨拶して廻るといのは長年定着し、控えめな立ち居振舞で利用者に寄り添う姿や「先に、明るい」挨拶の職員を確認しました。面会簿は別々とし、個人情報を守っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの視点からではなく、傾聴し思いを察することを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーションなど声掛けはするが無理強いはせず本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の仕度は出来る限り入居者と共に行い、好みに合う物を決める。起床時の洗顔、整容の支援を行っている。男性入居者には毎日電気シェーバーを渡しご自分でやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つの為、盛り方も彩りを考えたり、またその方に合った食事形態にしている。テーブル拭きや下膳など一緒に行っている。	業者からメニューとともに届く食材は病歴や状態にあわせてもらえ、調理は職員がおこなっていません。包丁を使う人も今はいず、テーブル拭きや片付けをする程度ですが、できることをしてもらえるようにしています。	おやつレクリエーションが復活し、参画機会が膨らむことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康記入表に摂取量を記入し、意識しながらその方の嗜好にあった物を提供できるよう努めている。その都度食事形態の見直しもやっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや歯磨きを行っている。義歯はその都度外して洗い、夜間はお預かりして洗浄液につける。ブラシやスポンジ、口腔ティッシュなどその方にあった物を使用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェック表を活用し、誘導、声かけを実施しており、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。変化のみられた時はパッドの見直しを行っている。	ユニットに3箇所あるうちの1つは車いすがスムーズに入れる広さがあり、立ち上がりのためのバーも設置されています。水分摂取量を介護日誌に記録して注視するようになったことから、便秘も減っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量を踏まえ、その方の排便リズムを把握したうえで運動を促したり腹部マッサージを行っている。また必要時は主治医からの処方薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日中帯にほぼ毎日入れる体制にしている。入浴を拒否される方には清拭や足浴で対応できるよう努めている。	できるだけ湯に浸かってもらいたいと考えていますが、本人意向や身体の負担を鑑みシャワーチェアとなる人もいます。週2日をめやすとしていますが「毎日入りたい」との声にも応え、気分転換に足浴も加え足ツボについての手製ポスターもありました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで過ごして頂いており、その日の体調を観ながらいつでも休息をとれる状況にしている。日中の臥床については夜間の睡眠の妨げにならない程度に声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に目を通し理解するようにしている。変更時には申し送りと連絡ノートで全職員に周知し、経過観察を朝の申し送り時に報告している。主治医の指示のもと服薬管理を行っている。誤薬のないよう服薬後の確認、サインをする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換がはかれるよう動と静のレクリエーションの中から、本人に選んで頂き楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたい方を止める事なく同行し散歩や買い物等に出かけている。地域の行事にも近隣の方の協力頂き参加している。天候により外気浴を心掛けている。	いきなり「飯を食べに行こう」と言い出されたときも付添ってラーメンをつきあつたりと、本人本位の臨機な対応を旨としています。リフトが付いた車輛も含み3台を擁していることから職員が思い立ってのドライブ外出も叶い、近隣のスーパーマーケットでも1~2週に1度買い物しています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、物取られ妄想などのトラブルの原因をさける為、家族、後見人、権利擁護の承諾のもと小遣いとしてホーム内金庫にてお預かりしている。個々のお小遣帳を作成、管理し、使う場合は一緒に買い物に出かける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の承諾を得ている方には自由に電話をかけて頂けるように支援している。手紙に関しても自由であるが書く方はなく、着た手紙等は本人にお渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は清潔に気を配り、安全に過ごして頂けるようスタッフが近くで見守りをしている。 壁には共同で作成したものを掲示、季節を理解して頂くように努めている。	車いす利用の人もテレビの団欒に入れるよう考慮したソファ配置です。前回の外部評価より格段に整理整頓が向上し、居心地の良さが増していることを視認しました。また回想法にも通ずる40~50年前の静岡市繁華街の写真は、利用者も立ち止まって見入っていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニングにて自由にくつろいで頂き、他者との会話を楽しんだり、一人で静かにテレビや新聞をご覧になり過ごして頂けるよう家具の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものをお持ちくださるよう本人、家族にお願いしている。居室内は自由にお使い頂き、仏壇や写真をお持ちの方もいらっしゃる。	エアコンやベッドが備え付けですが、持ち込みも仏壇やチェストのみでどの居室もシンプルで、逆に家族写真が目を惹きます。なかには洋服好きが高じてスペースいっぱい置かれた部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	言葉掛けや文字など各利用者に分かりやすい工夫や筆談で会話の成り立つ方のホワイトボードを用意してある。必要以上の支援にならないよう、できる事はご自分で行ってもらっている。		